

広島派遣研修へ行って

青海中学校 2年 大山 結唯

広島に原爆が落とされてから 80 年と節目の年になりました。戦争についてよく知らない私達の世代でしたが、今回の派遣で見て、聞いて、感じたことを紹介します。

1 つ目は、被爆体験講話についてです。講話者は爆心地から離れており、被害が比較的少なかった場所で暮らしていた男性と、当時爆心地から少し離れたところに住んでいた方のお腹の中にいたという女性でした。講話者は兄や爆心地に近い人が見た状況を話さないことが多かったということや、差別があったということを話していました。私は見た状況を話さないというのは、それほど酷い光景だったのかなと思っていましたが、講話者によると「話したら差別に遭ってしまうから」とおっしゃっていて驚きました。被爆者が受けていた差別では、被爆者の体に原爆が残っていると言われ、うつるからと避けられたり、当時は男尊女卑の時代でもあり、子供にも遺伝すると女性の差別が多く、「広島の人たちは怖い」という間違った情報の影響で避けられることが多かったと聞きました。講話者は最後に、大切なことは、「正しく知り合うこと」とおっしゃっておられました。

2 つ目は、平和記念式典についてです。私は、平和記念式典をしていたところは 80 年前ちょうど原爆が爆発した場所と聞き、そのような場所に私が立っているのだと思うと何とも言えない気持ちになりました。また、たくさんの国の

人が広島に集まって、黙祷をしている姿には一体感があり、貴重な体験だと感じました。

3つ目は、広島平和記念資料館についてです。原爆が爆発した当時に被爆者が着ていた服や残した手紙などが写真と一緒に展示されていました。服などには血や泥がついていたり、手紙には大切な人への感謝や謝罪が書かれていたり、遺書がありました。当時の状況がどれだけ悲惨だったかを物語っており、授業などで勉強していたつもりでしたが、実際に見ると想像以上の衝撃を受けました。

今回の経験から、教科書などでは分からないことがたくさん学べました。戦争がどんなものだったのかを知ることができ、改めて平和に生活することのありがたみと、大切さを感じました。

研修で学んだことを周りの人に伝え、原爆が投下され多くの人が犠牲になったことを決して忘れないことが、自分にできる平和への一歩だと考えます。

今でも世界では戦争が起こっています。たくさんの方が大切な人を亡くし、当たり前前の生活を奪われ苦しむ戦争がもう二度と起こることがないように願います。
